Regional Innovation Research Center

Graduate School of Economics and Management, Tohoku University

東北大学大学院経済学研究科　地域イノベーション研究センター

2013

TOHOKU UNIVERSITY

MESSAGE

イノベーションの実現を通して地域力の持続的向上を

2011年3月の東日本大震災から3年目を迎えていますが、被災地をはじめとする東北地域は、建設関連事業に牽引されて一時的な活況を呈して空前の人手不足が続いています。被災地のインフラの復旧は喫緊の課題ですが、5年後、10年後もこうした一時的な需要に依存し続けることはできません。新たな産業を育成し定着させるための経済・社会政策や地域企業によるビジネスモデルの革新なくして中長期的な東北地域の発展を期待することはできません。そこで地域イノベーション研究センターは、中長期的な視点から東北地域の経済・社会に関する調査研究を踏まえた様々な政策を提言し、地域経済・社会をリードできるプロデューサー（革新的な事業家）を育成しイノベーションを支援することによって東北地域の発展に貢献したいと考えています。

地域イノベーション研究センター長　経済学研究科教授　藤本 雅彦

Contents

新しいステージへの飛躍 …… 03~05

［地域の調査研究］

地域産業復興調査研究プロジェクト …… 06~07

地域発イノベーション調査研究プロジェクト …… 08

地域中小企業景況調査 …… 09

［地域の人材育成］

地域イノベーションプロデューサー塾 …… 10~11

みやぎ県民大学開放講座 …… 12

関西起業塾 …… 12

［広報活動］

国内での活動 …… 13

海外での活動 …… 13

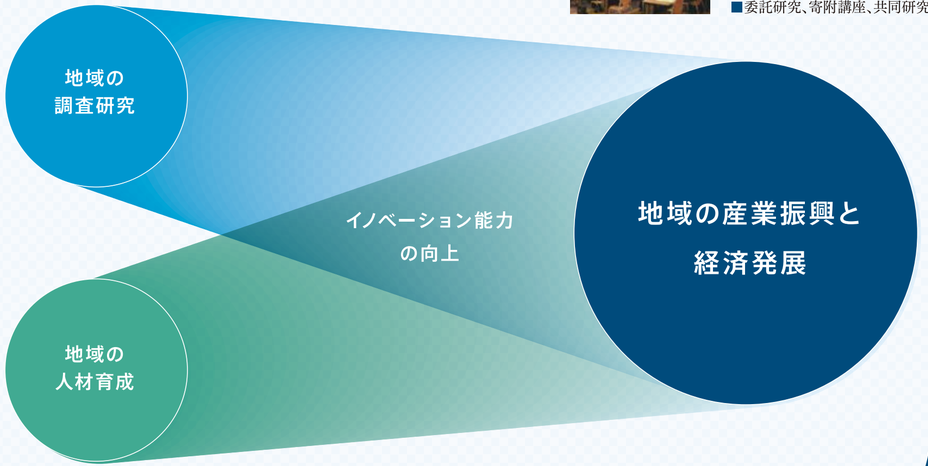
東北の革新のために。地域イノベーション研究センターの設立

設立の目的

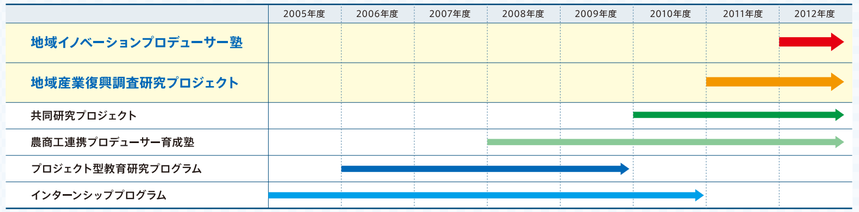
地域イノベーション研究センターは、経済学研究科内外の知的能力を組織的に結集して教育研究活動を行うことによって、東北地域のイノベーション能力の向上を図り、東北地域の産業振興と経済発展に貢献するために必要な諸事業の企画、実施および調整を行うことを目的とします。また、センターは本学および地域の企業、自治体、NPO 等の実務家たちと交流する場を提供することによって、地域の現実について強い関心と理解をもち地域発展への貢献意欲と能力をもつ人材を育成します。

事業内容

- ■地域イノベーションに関する研究の推進
- ■地域イノベーションに関する教育の推進
- ■地域イノベーションを牽引する指導者的人材（地域プロデューサー）の育成
- ■地域イノベーションに関する情報交流の推進
- ■委託研究、寄附講座、共同研究の受入



活動実績



STAGE.1
2005.07

未来への確信のために。東日本大震災の発生、復興への貢献

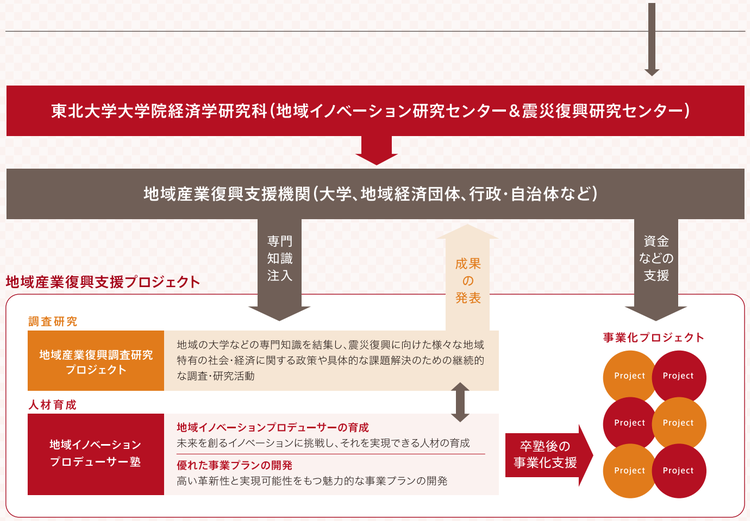
STAGE.2
2011.03

震災復興の中長期的な視点からの支援を目的として、東北地域の産業復興に向けた地域産業復興のグランドデザインを様々な学問的知見を総動員して取りまとめていきます。継続的にフィージビリティスタディを行い被災地からの政策提言や情報発信をするとともに、2012年度より地域企業の幹部や次世代経営者を対象とした、東北地域の産業復興に貢献できる革新的プロデューサーの育成事業を実施しています。

東北大学は、東日本大震災の被災地域の中心にある総合大学として、東北復興・日本再生を牽引するエンジン・原動力となるため、2011年4月に「東北大学災害復興新生研究機構」を設立しました。3つの基本理念に従い、機動的運営と全学からの積極的参画を得て、8つのプロジェクトに取り組んでいます。

〈基本理念〉
- ●復興・地域再生への貢献
- ●災害復興に関する総合研究開発拠点形成
- ●分野横断的な研究組織で課題解決型プロジェクト形成

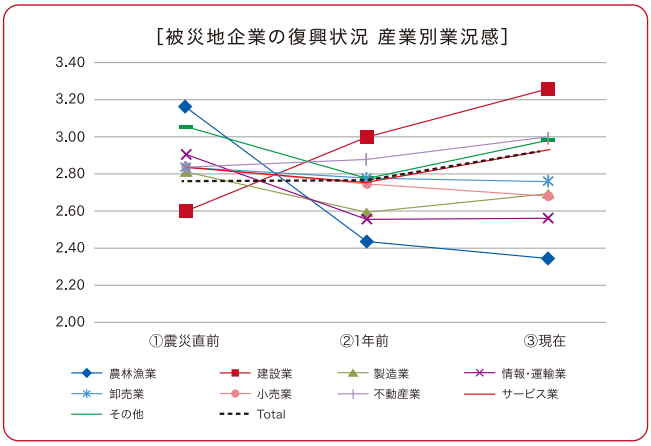
- ■災害科学国際研究推進プロジェクト
- ■地域医療再構築プロジェクト
- ■環境エネルギープロジェクト
- ■情報通信再構築プロジェクト
- ■東北マリンサイエンスプロジェクト
- ■放射性物質汚染対策プロジェクト
- ■復興産学連携推進プロジェクト
- ■地域産業復興支援プロジェクト



イノベーションによる東北地域産業・社会の復興

地域産業復興調査研究プロジェクト

本プロジェクトは、東日本大震災からの復興過程の現状と課題に対して学問的知見をもとに調査分析に取り組み、地域において産業・社会を再構築するための新たなモデルの構想や政策提言を行う等、被災地から情報発信を行うことを目的としています。
プロジェクトでは、被災地の中心である仙台市に立地する大学の研究者を中心に、広く域外の大学・研究機関等からの参画も得て、国の機関、地方自治体、東北地域の財界・シンクタンク、民間企業等との連携と協力のもと、2012年度から5年間にわたる本格的な調査研究として、新たな産業・社会の形成による東北地域の復興に向け、様々な課題解決に取り組んでいます。



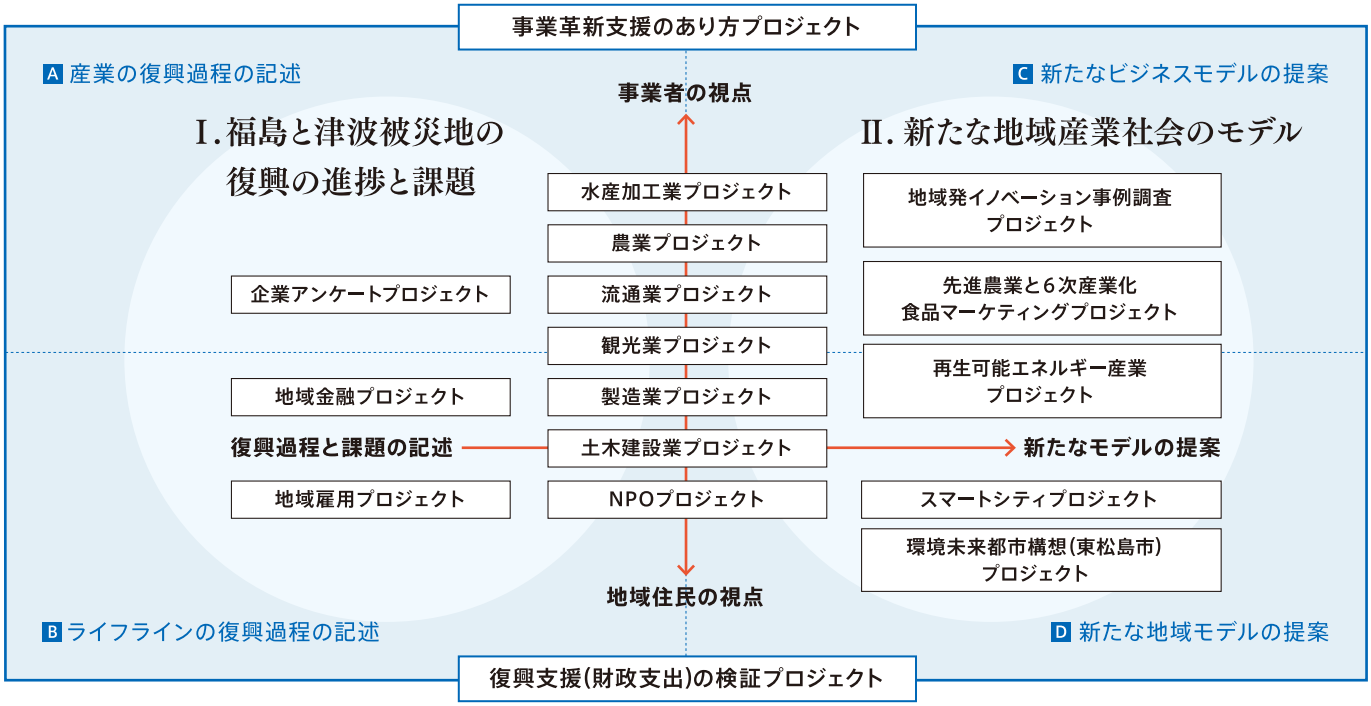
震災復興研究センター

震災復興研究センターは、2011年4月に地域イノベーション研究センター内に設立され、本プロジェクトの実施とともに、学内組織である災害科学国際研究所や学外の諸団体・学協会等と連携した研究活動を進めています。

震災復興研究センター長　経済学研究科教授
増田　聡

プロジェクト構成図（2013年度）

本プロジェクトは、復興の進捗状況と地域主体の視点を踏まえたテーマごとのサブプロジェクトから構成されています。2013年度は企業アンケート等の継続調査のほか、新たな調査テーマを加え17のサブプロジェクトを実施する計画です。



2012年度の成果発表

地域産業復興調査研究シンポジウム

東北地域の産業・社会の復興と再生への提言

復興過程の現実に向き合い、地域の可能性を探る ——

日時：2012年10月21日（日） 13：30 ～17：30
場所：東北大学片平キャンパスさくらホール
主催：地域イノベーション研究センター，震災復興研究センター
共催：公益財団法人経和会記念財団

2012年度調査研究の中間報告と位置づけ、被災地企業に対する大規模アンケート調査および東北地域の主要産業や社会生活に関する調査プロジェクトの成果を発表し、復興に向けて地域が抱える課題を広く考える機会となりました。

再生可能エネルギーの産業化と東北復興

太陽光先進地域から何を学べるのか ——

日時：2013年2月6日（水） 13：00 ～17：20
場所：東北大学片平キャンパスさくらホール
主催：地域イノベーション研究センター，震災復興研究センター

再生可能エネルギーの今後の普及を地域産業の活性化と雇用創造につなげるべく、太陽光発電の先進地域である関西・九州等で事業展開する企業事例を紹介しながら、学び考える機会となりました。

書籍

東日本大震災復興研究〈第1巻〉

東日本大震災からの地域経済復興への提言

— 被災地の大学として何を学び、伝え、創るのか —

河北新報出版センター（2012年3月）

【主な内容】

- 地域経済復興のシナリオ
  マクロ経済把握分科会
  地域社会分科会
- 産業再生・創造のかたち
  産業分科会：
  食産業チーム
  観光チーム
  ものづくりチーム
  情報・通信チーム
  流通チーム
- 雇用創造・企業再生のすがた
  人材ビジネスインフラ分科会
  金融ビジネスインフラ分科会

東日本大震災復興研究〈第2巻〉

東北地域の産業・社会の復興と再生への提言

— 復興過程の現実に向き合い、地域の可能性を探る —

河北新報出版センター（2013年3月）

【主な内容】

- 第一部 震災復興企業実態調査
- 第二部 復興の進捗に見る現状と課題
  地域産業
  漁業、農業、水産加工業、商業、観光、地域金融
  地域社会
  雇用、NPO活動、復興事業の課題
- 第三部 新しい地域づくりの可能性
  再生可能エネルギー
  スマート＆コンパクトコミュニティ

地域発イノベーション調査研究プロジェクト

東北地域産業の活性化には、イノベーションを実現する挑戦者(イノベーター)の存在が不可欠です。彼らこそが行き詰まりを見せている経済の仕組みや政策を変え、再活性化の担い手となります。しかし東北地方にはこのような挑戦も、その担い手も少ないと言われてきました。それは本当でしょうか。本プロジェクトでは、(公財)東北活性化研究センターとともに、東北地方の挑戦者たちによってなされたすぐれたイノベーション事例を発掘し、そのようなプロジェクトがいかに始まったのか、挑戦者たちがそのプロセスでどのような困難に直面しどう乗り越えたのかなど、イノベーションの軌跡を明らかすることに取り組んでいます。2013年度には震災復興の中で立ち上がったイノベーターたちの挑戦に光を当てる予定です。そして被災地が自信と誇りを取り戻す一助になることを目指しています。

2011年度の成果発表

2011年度地域イノベーション・シンポジウム

挑戦者たちが語る地域発イノベーション

「地域発イノベーション調査研究」の調査報告を行うとともに、イノベーションを創出された挑戦者の方とイノベーションを導く挑戦者の要件について議論しました。

日時:2012年3月17日(土) 13:30〜17:30
場所:仙台国際センター
主催:地域イノベーション研究センター
公益財団法人東北活性化研究センター

書籍

地域発イノベーション〈第1巻〉東北からの挑戦

河北新報出版センター(2012年3月)

【内容】

株式会社 舞台ファーム	農家が主導する農産物の流通・加工イノベーション
有限会社 伊豆沼農産	地域とともに新しい農村産業を創造し続ける
株式会社 ジェイファーム	家族経営の農業の新たな可能性を開拓した先駆者
山本電気株式会社	モータ製造メーカーによる調理家電事業の創造
東洋システム株式会社	電池評価装置のシェア世界一の東北発中小企業
株式会社 ハニーズ	ファッション性と低コストの両立の追求
株式会社 Don Don up	「経験智」から生み出された独創的なビジネスモデルによるイノベーション
株式会社 ウジエスーパー	複数課題を同時解決しながら大手との差別化を図る地方スーパーの経営イノベーション
エヌ・エム・アイグループ	薬局が主導する新しい地域医療の形
株式会社 小島洋酒店	産学連携による「おらほ」のブランド創出物語
株式会社 清月記	葬儀ビジネスの本質を追求する

地域発イノベーション〈第2巻〉東北企業の資源発掘・展開・発展

河北新報出版センター(2013年3月)

【内容】

有限会社 ヒーロー	異業種から有機米農業への挑戦と試練
カーブドッチワイナリー (株式会社 欧州ぶどう栽培研究所)	一本の苗木が生み出すビジネスの多様性
株式会社 岩鋳	オートメーション化と海外市場開拓により現代に生きる南部鉄器
インスペック株式会社	半導体検査装置への地方からの挑戦
株式会社 モビーディック	世界一のウェットスーツを目指して
株式会社 南部美人	既存のパラダイムに挑む伝統産業のイノベーション
NECパーソナルコンピュータ 株式会社 米沢事業所	激動の環境下でのレジリエンス
株式会社 ビック・ママ	衣料品補修から「お直しコンシェルジュ」への飛躍
津軽地吹雪会 代表 角田 周	民間ネットワークによる津軽半島活性化 「地吹雪体験ツアー」を考案した観光カリスマ
株式会社 ピー・ソフトハウス	「なければ,つくる」で高品質なソフトウェアを世界に
特定非営利活動法人 グリーンシティ	風を起こし地域を興す「市民風力発電 おおま」

Innovation Café 地域発イノベーション・カフェ

東北からの挑戦 ―地方だから起こる、地域ならではのイノベーション―

日時：2013年3月1日（金）18:00～20:00（懇親会20:00～21:00）
場所：東北大学片平キャンパス エクステンション教育研究棟
主催：地域イノベーション研究センター，公益財団法人東北活性化研究センター

イノベーション・カフェでは、2012年度の活動成果である11事例を紹介するとともに、「東北地域で眠っている資源は何か」「地域資源の発掘と展開を阻むものは何か」などのテーマで参加者の皆様とワークショップを実施し、「東北地域からいかにイノベーションをおこすか」について活発な議論を展開しました。

Program

基調講演
「地吹雪体験ツアーと広域観光ネットワーク作り」
津軽地吹雪会 代表　角田 周 氏

事例紹介
東北大学大学院経済学研究科 教授 福嶋 路

ワークショップ
テーマ：「東北発イノベーションを起こすには何が必要か」
コーディネータ：「地域発イノベーションⅡ」執筆者

地域中小企業景況調査

宮城県中小企業家同友会が会員企業を対象に行うアンケート調査に協力しています。年2回、会員企業の現在の経営状況および3ヶ月後の経営状況の予測について調査を行い、報告書を作成します。また、毎回の調査では、時期に合う特別テーマが設定され、地域中小企業の取り組みの現状と課題についても調査が行われます。

これまでの特別テーマ

上半期		下半期	
2005年	会社の経営で問題となっていること	2005年	会社の経営上の主要な取り組みの状況
2006年	経営者として向上させたい能力	2006年	障害者雇用
2007年	後継者問題	2007年	経営指針の作成および運営
2008年	原油・石油製品価格上昇の影響	2008年	昨今の経済情勢の自社への影響
2009年	今後の景気回復の見通し	2009年	自社の雇用情勢
2010年	資金繰り・資金調達	2010年	人材育成
2011年	東日本大震災の影響	2011年	東日本大震災の影響（震災後9ヶ月を経過して）
2012年	東日本大震災後の雇用状況	2012年	事業化支援機関の活用状況

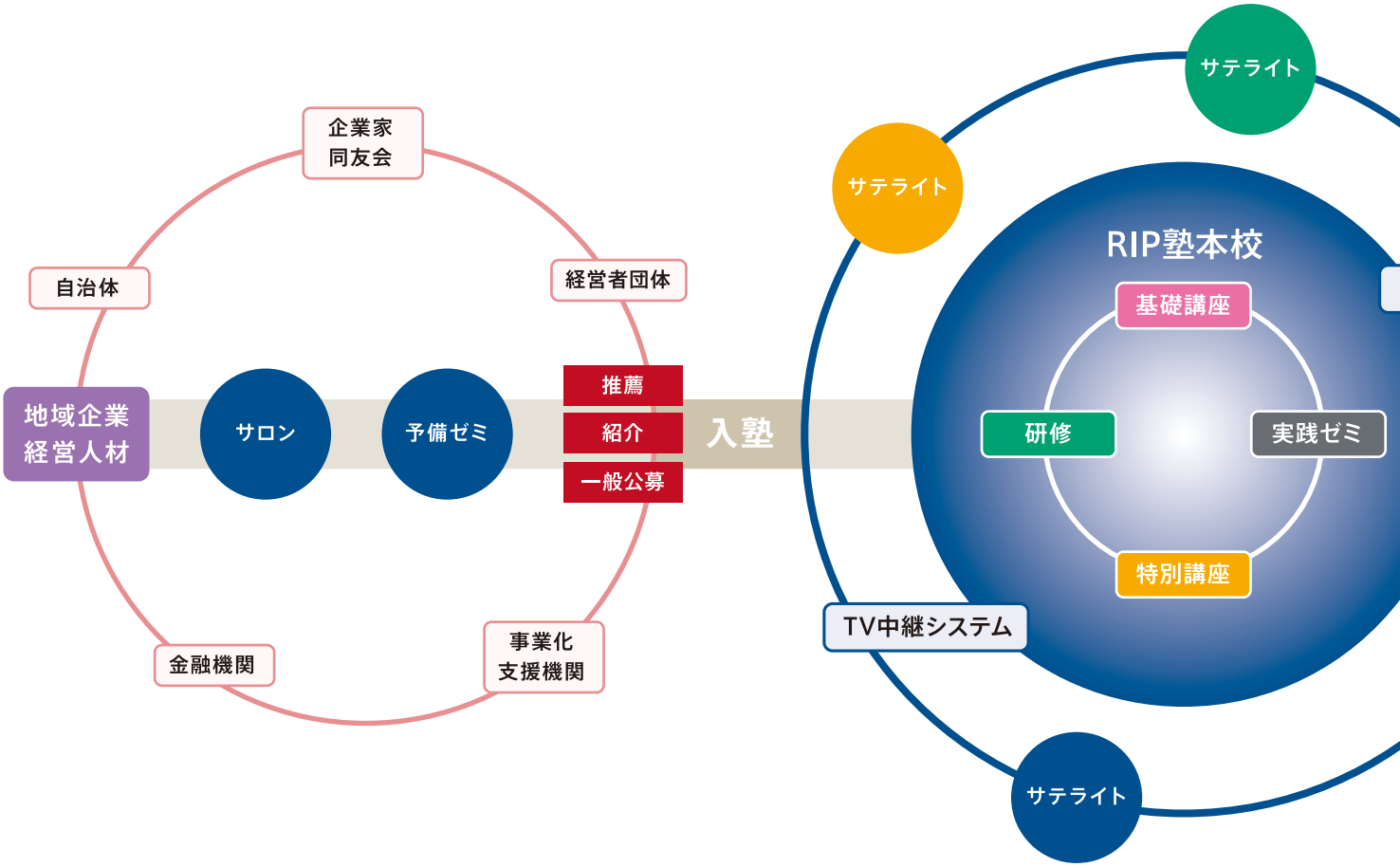
地域イノベーションプロデューサー塾

地域イノベーションプロデューサー塾(以下、RIP塾)は、地域企業、特に中小企業の経営人材を対象に、革新的なイノベーションによる新事業の開発を促進し、地域における新たな雇用機会の創出と産業振興に貢献できる革新的プロデューサーを育成する事業です。RIP塾は、地域の経営人材が未来を創るイノベーションに挑戦して魅力的な事業プランを開発し、構想力と実行力を支える知力・スキル・マインドを学習するための場を提供するとともに、卒塾後の事業プランの実現プロセスを支援していきます。

RIP塾の最も重要な特徴は、体系的なカリキュラムと支援体制をもって新事業開発、プロデューサー育成および事業化段階の支援を一体的に行うことです。RIP塾は、地域発展のための新しいモデルとして構想されたもので、まず東北地域においてその実効性を検証し、将来的には日本の他の地域にも普及していくことが期待されています。

育成する人材像

- イノベーションへの強い挑戦意欲をもち、すぐれた新事業をプロデュースできる人材
- 新事業の創出を支える、自社のマネジメント・システムを構築できる人材
- 地域において経営人材育成と新事業開発を効果的に指導できる人材



塾生開拓

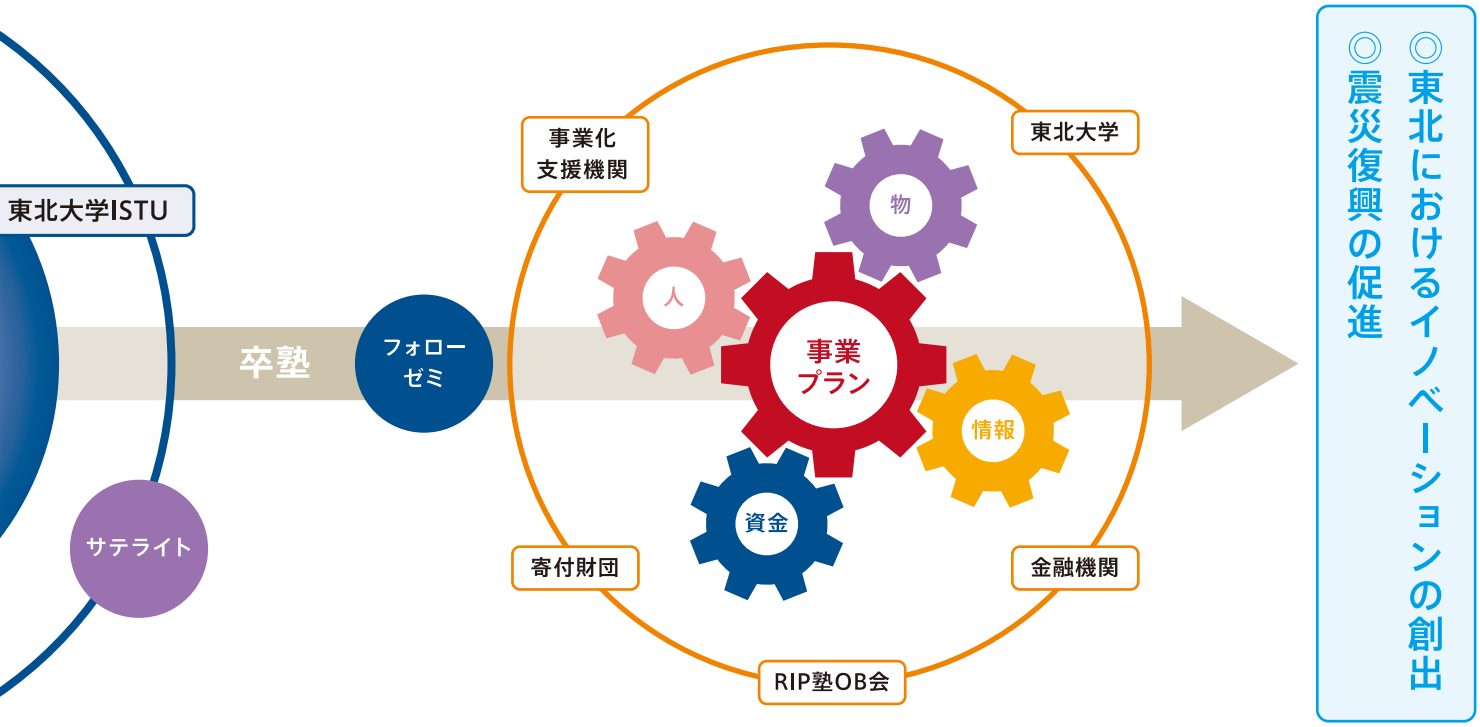
サロン	入塾者開拓および入塾希望意識の高揚
予備ゼミ	入塾候補者の事業構想のブラッシュアップ
入塾者募集	多様な募集方法:推薦募集、紹介募集、一般公募 ※推薦と紹介は本塾認定の機関に限る

地域イノベーションプロデューサー塾

カリキュラム	プロデューサー育成と事業プラン開発の同時達成 理論・発想・演習・実践の融合教育 塾生の自主的な能力の養成を重視
TV中継システム	本校とサテライトとのリアルタイム映像授業
東北大学ISTU	東北大学インターネットスクールによる 欠席対策および復習支援

カリキュラムの構成

区分	内容
基礎講座	新事業のデザインに必要となる基本的な知識として、ビジネスデザインの原理と方法、デザイン思考、マーケティング、資金計画、技術、知財と法務などについて学習し、またそれを組織として支えるために必要な人材・組織マネジメント、業務改善などについて、各分野の一流の講師陣による講義と議論を通じて学習する。
特別講座	毎回特定のテーマを設定し、基礎講座の内容とも連動させながら、東北地域の中小企業が新事業をデザインし成功させていくためにもつべき重要な知識や視点として、需要分析と集客のデザイン、ブランド戦略、中小企業の事業承継と海外進出などについて、成功事例を中心に学習する。
研修	従来とは異なるイノベーティブな取り組みを実現するためには、事業運営に必要な知識だけでなく、実際に組織や関係者に影響力を発揮するための事業家マインドや高度な対人関係スキル、複眼思考スキルなどが要求されます。研修では、グループでの演習などを通してこうしたマインドやスキルを習得する。
実践ゼミ	塾生自身の事業アイディアをベースに、「イノベーションを可能にするビジネス設計書の完成」を目指す。実業で活用されている事業設計工程に基づき、演習を中心としたスタイルで、毎回、ビジネス部品をひとつひとつ構築し、最終的に、卒塾後に執行可能なレベルのビジネスプランを組み立てる。



事業化支援

フォローゼミ	卒塾者の事業化支援およびフォローアップ 重点支援、認定支援、一般支援
産学官連携	産学官連携体制による事業化支援の強化
RIP塾OB会	イノベーション・プロデューサー・ネットワークの構築 地域経済活性化の牽引

みやぎ県民大学開放講座

本事業は宮城県からの委託を受けて実施する一般市民を対象とした開放講座です。当センターでは、地域中小企業のイノベーション能力を向上させることに焦点をおき、これまで「地域企業イノベーションの切り口」、「地域企業の飛躍を考える40の質問」、「管理者の役割とリーダーシップ」、「東日本大震災からの復興：現状と課題」などをテーマにして公開講座を実施してきました。

《2013年度予定》

「デザイン思考と事業創造」

新しい製品や事業の開発および企業経営の起爆剤としてデザインをとらえます。私たちの生活世界とデザインとの関係を新しく把握し、企業経営におけるデザインの位相を高めていく必要性について、講義、議論、事例を通じて考えます。

第1回	9月5日（木） 18:00〜20:00	経験デザインへの気づき 東北大学教授　権奇哲
第2回	9月12日（木） 18:00〜20:00	デザインと経営：事例学習Ⅰ 東北大学教授　福嶋路
第3回	9月19日（木） 18:00〜20:00	デザインと経営：事例学習Ⅱ 東洋学園大学専任講師　菅野洋介
第4回	9月26日（木） 18:00〜20:00	価値デザイン 東北大学特任教授　板垣良直

関西起業塾

本事業は、東日本大震災からの復興を支援したいという関西経済連合会の提案を受けて共同企画した公開講座です。2012年度には全国的にも有名な関西の経営者3人が東北の若手経営人材と学生たちに企業づくり・新事業づくりのヒントを熱く語りました。東北地域の再生は、より多くの中小企業が創出するイノベーションによる経済活性化と雇用創出が大きな鍵を握ります。このためには多くの地域企業が大局的な環境認識のもとで事業創造・技術開発・人材育成の堅実な仕組みをつくり、旺盛な起業家精神をもって新たな事業にチャレンジすることが不可欠です。「関西起業塾」はそのための強い意欲と豊かな智恵を得る機会となります。

《2013年度予定》

7月以降に3回の公開講座を実施する予定です。

国内での活動

東北大学イノベーションフェア2013

2013年1月17日に開催された「東北大学イノベーションフェア2013」の特別展示「復興プロジェクト+アクション」にて、「地域産業復興支援プロジェクト『震災復興に向けた東北地域産業の調査研究と革新的プロデューサーの育成』」のブース出展を行いました。当日は、地域内外の企業関係者、研究者等が多数訪れました。

東北大学災害復興新生研究機構シンポジウム ～「日本復興の先導」を目指して～

2013年3月9日に開催された『東北大学災害復興新生研究機構シンポジウム～「日本復興の先導」を目指して～』において、東北大学全体として取り組んでいる8つの重点プロジェクトの1つである「地域産業復興支援プロジェクト」の活動内容を藤本センター長が紹介しました。

海外での活動

東日本大震災二周年国際シンポジウム（韓国・ソウル）

開催日：2013年3月11日
場　所：ソウル大学国際大学院

ソウル大学日本研究所が「復興と危機:終わっていない東日本大震災」を主題として開催した「東日本大震災二周年国際シンポジウム」に参加し、招待講演「東北復興の起こりうる未来：シナリオ・プランニングによる展望と評価」を行いました。今後も、ソウル大日本研究所の震災研究チームとの研究交流を進めていく予定です。

東日本再生ヴィジョン展（フランス・リヨン）

開催日：2013年3月12日～23日
場　所：リヨン市庁舎、リヨン第3区役所

フランス・リヨン市で開催された東日本大震災に関する展示企画に対して、本学アーカイブプロジェクト・みちのく震録伝および河北新報社の協力を得て情報提供を行いました。また、現地において本学の復興への取り組みや被災地の現状についてのプレゼンテーションとパネル展示を実施しました。プレゼンテーション後には地元市民との間で東北の現状などについて熱心な質疑応答が交わされました。

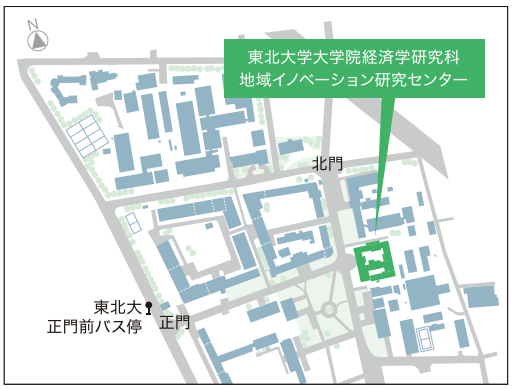
ジャパニーズ・ウイーク 神戸大学シンポジウム（ベルギー・ブリュッセル）

開催日：2013年3月13日
場　所：欧州経済社会評議会

本学と災害科学分野において連携協力協定を締結している神戸大学がベルギー・ブリュセルにおけるジャパニーズ・ウィークの一環として開催する東日本大震災2周年シンポジウムに出席し、本学の復興への取り組みについてプレゼンテーションを行いました。共に震災被災地の中心に立地する総合大学として連携しながら、海外機関においても積極的な情報発信を行っています。

ACCESS

▼片平キャンパス構内図



バス

【仙台駅前11番のりば】（仙台市営バス）
霊屋橋・動物公園経由緑ヶ丘三丁目行／
霊屋橋・動物公園・日赤病院経由八木山南団地行
東北大正門前バス停下車（約10分、180円）

【仙台駅前12番のりば】（宮城交通バス）
霊屋橋・動物公園・西の平経由 長町南駅・長町（営）行
東北大正門前バス停下車（約10分、180円）

タクシー

仙台駅西口から約10分

東北大学大学院経済学研究科 地域イノベーション研究センター

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1
エクステンション教育研究棟 6階

TEL：022-217-6265 FAX：022-217-6266
E-Mail：rirc@econ.tohoku.ac.jp

http://www.econ.tohoku.ac.jp/rirc/